<3・11>から3年、再稼働NOの声を全国で!

§ 1. ◆原発現地から◆原発NO! 再稼働を前に、福井からの報告

◇大飯原発(福井県)●若泉政人(サヨナラ原発福井ネットワーク)

- ■都知事選が終わり脱原発を訴えた候補は敗れました。選挙後、さっそく安倍首相は国会で「継続的に基準の見直しの検討を行っていく」「単に原子力機器や高い安全性を有する技術の提供を支援するだけではなく、制度整備や人材育成への支援も行っていく」と述べたとのこと(2月10日NHK)。河瀬敦賀市長は、「舛添さんは政策が近い方なので良かった、エネルギー政策への影響は一地方選だが、あれだけ大きな街の選挙。ある程度影響はあると思う」と語りました(2月10日福井新聞)。原発を巡る大きな流れの変化を感じつつも、過半数の人々は原発再稼働を望まないという「声」を力に、これからも原発ゼロを目指していきたいと思います。
- ■再稼働について、現時点で29項目ある新規制基準の適合性審査の内、関西電力の大飯3、4号機、高浜3、4号機は、26項目の書類が規制委員会に提出されています。2月10日に関西電力広報に尋ねましたら、書類は残りの3項目も揃っているが、不足など追加資料等を規制委員会に要求され提出が完了してない状態とのこと。再稼働に向けた審査状況は一気に進む可能性があるという印象を持ちました。
- ■1月28日には、福井県原子力安全専門委員会が6カ月ぶりに開催され、大飯・高浜の安全対策の状況や高浜3号機の高経年化技術評価、もんじゅの高速増殖原型炉もんじゅにおける保守管理上の不備とその対応について事業者から報告と委員からの質疑が行なわれ、特にもんじゅについて、中川委員長は「このままでは組織として全て駄目となるが、機構ももんじゅも研究成果は出ている。本来の原因は、権限と責任が明確でないところではないか」と指摘したとのことです(1月29日産経新聞)。

- ■福井では、3月9日に「3.11メモリアルアクショ ン 原発のない新しい福井へ」を鯖江市文化セン ターにて開催します。当面、この集会の成功を一 つの目標として、福井の各地区で実行委員がグル ープを形成し取り組んでいるところです。集会は、 福島を原点に「福井から原発NO!」の声を上げる べく、福井県外からも木田節子さん、秋山豊寛さ ん、山本太郎さん、広瀬隆さんらも駆けつけ応援 してくださいます。福島第一原発事故から3年を経 て、人々の関心も薄れつつあるのではないかとい う危機感とより一層福井の原発を考えてもらおう と、今回は今まで集会に参加されなかった方々、 農業者、サーファー、子育て世代にも積極的に声 を掛けています。農業者グループの賛同もあり、 農業従事者が積極的に声を上げるようになれば大 きな力になることは間違いないと思います。
- ■集会が今までのものとは違ったものであることをプレ企画を通じて印象付け、新たな参加者を募りたいということから、1月25日には敦賀市にて前双葉町長・井戸川克隆さんの講演会を行いました。講演会には100名を超える方々が敦賀市や若狭の地区、福井県外からも参加。貴重な経験のお話しを元に、実際にどのように推進側に対処すべきかという質問(安全協定に変わる、電力事業者とより実効性のある"契約"について)が市議からも出されました。

同じくプレ企画として、2月8日に敦賀・美浜から30キロ圏内にある越前市(嶺北地域)にて、昨年末策定した「越前市原子力防災計画」を市が住民に説明し、市民が原子力防災の問題点を指摘する意見交換会も開催。約30名の市民が参加し、質疑を通して様々な問題点(あくまでも対策の原則が書いてあるだけで、具体的なことは詰めらていないなど)が浮かび上がりました。集会やデモに

は参加しづらい方も、自分の生命や安全に関わる 防災計画については参加しやすいと思われるので、 これを機にいろいろな地区で開催をと訴えました。

■再稼働への動きを注視しながら、防災などで

一般に関心を拡げ、福島の現状も考えるといういろいろな角度の活動が行なわれています。福井県内、県外とより一層横につながることの重要性を感じています。共に闘い、頑張ろう!

3・11メモリアルアクション 原発のない新しい福井へ http://311memorial.web.fc2.com/ 日時 2014年3月9日(日) 会場 鯖江市文化センター 問合せ 090-8263-6104(事務局:林) 内容 12時~文化行事 13時~集会 福島からの呼びかけ(木田節子さん) 挨拶 広瀬隆さん、 秋山豊寛さん、山本太郎さん ほか資料展示 | 集会後、市民行進(予定)

主催 3・11さよなら原発福井県集会inさばえ2014実行委員会

§ 2. ◆原発現地から◆ この世にあってはならない 志賀原発

ー 直下の"活"断層問題を見すえつつ再稼働阻止の闘いを強めよう ー

◇志賀原発(石川県)●藤岡彰弘(命のネットワーク)

■1.ようやく始まる規制委調査■ 2月22日から 志賀原発1号機原子炉建屋直下の断層(S-1)に関 わる原子力規制委員会の有識者調査団による調査 が始まる。昨年12月19日、北陸電力はこのS-1に 「活断層」がないという最終報告書を提出した。

旧原子力安全・保安院の意見聴取会で「典型的な活断層」と断じられてからすでに1年半。自らが25年前に提出した決定的証拠であるS-1断層面のスケッチを覆すに足る資料を揃えたと、北電はマスコミの前で胸を張った。

この2月14日、実際にはダイヤモンドコンサルタントに丸投げして提出した報告書に対し、各有識者達からの「注文」が相次いだ。

今後しばらくは、これら解凍されて出てきたような「注文」を、北陸電力がどうさばくのか、そのことばかりが取りざたされるのだろう。しかし、これらの「注文」が予期されていないはずはない。いったいこの1年半、規制庁あるいは経産省、北陸電力は、どんなヤリトリをしてきたのか。

■2. 延期につぐ延期 その一方で… ■ やり直し調査開始直後に、建屋直下近くまで大がかりなトンネルを掘って、昨年1月には提出されるはずだった調査報告は、あっさり、同6月まで延期される。6月になり「さあ報告書!」と勢いこんでいた北陸電力は、「周辺断層との連動性調査が不充分」と原子力規制委員会から肩すかしを喰わされた。更に延期を重ねた9月報告の直前、原子炉から1キロ余り東の福浦断層に「新たな露頭面」が見つかっ

たからとまたまた延期。12月にようやく**最終**報告となった。だがいくら何でも、今まで見落としていた露頭面が、そんなに都合よく「発見」されるものだろうか。

その一方で北陸電力は、この延長騒ぎの中、"しつかり"と再稼働への準備を進めてきた。昨年9月には緊急対策棟を完成させ、11月4日からは2号機建屋の耐震補強工事に着手。さらに同月6日には、1号機タービンの一式交換を発表した。耐震補強にもタービン交換にも一年以上を要する。マスコミ向けには『1日も早い再稼働を!』と言い続けながら、S-1の「決着」にはたっぷり時間がかかることを、とっくに折り込み済みというわけだ。

■3. 活断層の上に達つ原発など、この世にあってはならない■ では、S-1の「決着」をみるまでは、ただ有識者会議の成り行きを見守るしかないのだろうか。否。福浦断層の「活動性」を北陸電力が否定しなかった時点ですでに結論は出ている。もう充分すぎるほどに。

志賀原発の原子炉設置許可申請書には、「原子炉からわずか1キロ余りに活断層あり」などとは書かれていない。ましてや、敷地内だけで、S-1はじめ8本もの小断層が交差している。これらのどれかが福浦活断層と連動したらどうなるのか。すでに設置許可そのものが無効になったということだ。

それを百も承知しているからこそ、北陸電力は 最終報告まえにそそくさと耐震補強工事を始めた のだし、一方規制庁側は、自らの責任回避のため、 福浦の「活動性」をしぶる北陸電力に発表させた のだ。なんとお粗末かつ身勝手なつじつまあわせ だろう。

しかし彼らがどんなにつじつま合わせに血道を 上げようと、志賀原発が建ててはならない場所に 建つ原発であるという事実は曲げようがない。

これからも、規制委側と北陸電力とのやりとりは続くだろう。そのやりとりをしっかり見すえつ

つ、私たちは、「志賀原発はもうやめよう!」という声をさらに高めるため、再稼働阻止の陣型をより強くしていかなければならないと思う。志賀原発はもう「この世にあってはならない原発」なのだ。

(参考:原子力規制委員会HP) 志賀原発敷地内破砕帯調査報告書 最終 H25年12月20日 http://p.tl/K8SY 中間報告 H24年12月7日 http://p.tl/OUTF

§ 3. ◆福島から◆「またやります!女たちの311 in 福島市

◇黒田節子(原発いらない福島の女たち)

■今日(2月7日)、福島市で開催されている第14回「県民健康管理調査」検討委員会の情報が入った。2011-2013年度合計でB判定1,795人(0.7%)、震災当時18才未満だった人の甲状腺の「悪性ないし悪性疑い 75 例」との発表だ。これは前回2013.11月の発表より17人増えていることになる。

この数値を巡ってまた「専門家」の論議がなされるのだろう。けれど、原子力規制委員会よりもIAEAよりも本当のことを知っているのは私たち福島市民ではないだろうかとの思いを強くしている。若者の突然死、白血病、皮膚・粘膜・目の異常、子どもにのう胞がたくさん等…身近にも多くの不安が直接、間接に語られる。(本当はもう遅いのだけれども、それでも)今、専門家のなすべきはグラフの解析や住民帰還に向けた対策ではなく、未来を生きなくてはならない人たちがこれ以上の被ばくを避けるための具体的な提案と対策だろう。これは怒りを通りぬけた切実な願いでもある。

- ■最近、谷中村(※1)を訪問する機会があった。 ここでのフィールドワーク中ずっと感じていたのは、100年前の足尾鉱毒事件と「3.11」後の福島と の驚くほど多くの似通ったところだ。その共通点 は、正造と太郎の天皇直訴アクションだけにある のではない。
- 1) 正造が求めていたのは鉱山の操業停止。2) 彼が守ろうとしたものは、憲法・自治・子どもの命・祖先。3) 「少量の銅は身体に良い」とした東大の学者たち。4) 強制移住を認めない国・行政。5) オホーツク沿岸サロマへ新天地を求め、辛酸を舐めた移住民たち。6) 「差別」された谷

中勢。7) 武器も持たず、ただ逃げ回った人々を不当にも逮捕した官憲。8) 東京などでの支援者の存在。9) 古川鉱業は国内で問題になるとフィリピンのレイテ島に行って操業、などなど。

あれだけの事故を起こしながら、なお営利をむさぼる企業とそれを守ろうとする国・御用学者。甚 大な被害が出ても変わらない「国策」。時代を超 えてなお、同じような過ちを繰り返していること に愕然とする。

一方で私たちは発見もする。押出し(※2)第一次8000人、第二次5000人。あの時代にそれはすごいことだった。女たちも必死に抵抗している。夜陰に乗じて利根川を船で下り、徒歩で、電車で。出なくなった母乳のためにカンパが集められたという。正造の自然についての洞察も時代を超えてさらに新しいが、さて、現代の私たちの押出しは足尾から何を学んだらいいのだろうか。

さて、「デモの絶叫はテロと同じ」発言の大臣を 率いる安倍政権は、やみくもにどこに向かってい くというのか。秘密保護法で市民運動を抑え込み、 フクシマを何事も無かったことにしようとの魂胆 だろうがそうはさせない。

しびらっこく(福島弁で"しつこく・柔軟に") 今年もまた女たちの3.11を開催します。共に、 あきらめずにやっていきましょう。

※1 足尾鉱毒事件で知られる栃木県下都賀郡にあった村。1906年に強制廃村、同郡藤岡町に編入された ※2 鉱毒反対運動のため渡良瀬川周辺住民が東京へ 集団で陳情(請願)に向かったこと

★3. 10「いのち まつらむ」脱原発のタベ ~祈りと対話と、歌の集い~★

日時 2014年3月10日(月) 18時開場 18時30分開演 21時終了

場所 郡山市「教組会館」(県教職員組合会館 郡山市桑野2-33-9) (参加費 カンパ歓迎)

主催 「いのち まつらむ」の集い

問合せ 070-5018-7478(黒田)、080-5227-2110(関)、080-6005-0734(大内)

内容 <第一部>「祈りと対話の夕べ」…ダイアローグ、詩の朗読など

<第二部>「いのちの歌ライブ」…歌/いぢょんみ、朴保

★3. 11「第3回 原発いらない地球(いのち)のつどい」★

日時 2014年3月11日 (火) 場所 AOZ[アオウゼ](福島市曽根田町1-18、MAX福島 4階) 内容 <午前>福島市内デモ行進&県への申し入れ(10:30集合 11:00デモ出発)

<午後>13:30開場 ●スライドショー「原発いらない福島の女たち」の歩み ●テーマ別の報告

- ●ミニコンサート --- 歌/いぢょんみ、朴保 ●キャンドルナイト
- ●駆けつけ人スピーチ --- 鎌田慧、山本太郎、他

共催 「原発いらない福島の女たち」&「スリーノン(3NON)の女たち」 問合せ 080-4518-7368

詳細 http://onna100nin.seesaa.net/article/388920911.html

§ 4. ◆原発現地から◆ 川内原発再稼働阻止! 南大隅町に処分場反対!

3.16 鹿児島集会へ結集を!! ◇川内原発(鹿児島県) ●松元成一(かごしま反原発連合有志)

■昨年12月、川内原発再稼働阻止の趣旨で「集まろう ストップ再稼働12.15in川内」集会が、薩摩川内市の向田公園で開かれた。主催は「ストップ再稼働!3.11鹿児島集会実行委員会」である。約1800名の参加があり近年では現地にはない大集会となった。地元川内、福島、伊方、東京、宮崎、玄海からのアピールがあった。特筆すべきは、鹿児島県南大隅町の自然を守る女性の会の大坪さんの発言だ。

南大隅町には高レベル放射性廃棄物最終処分場 の誘致問題がある。森田町長は、東電と原発フィ クサー・原幸一氏との間に密約を交わしたうえ、 原氏に建設計画(誘致)の委任状を渡してしまっ たのだ(2009年当時)(※1)。 この時、森田町 長はじめ町議会議長や町の幹部職員は、東電本社 を訪れて接待を受け、六ヶ所村の核燃料サイクル 施設見学までしている。六ヶ所村からも南大隅町 役場に関係者が訪れている。昨年、町長は委任状 を返してもらったと吹いているが、水面下での候 補地の動きに現地の方々は不安な日々を送ってい る。どこまで計画が進んでいるのか闇の中である。 「原発が止まっていても廃炉になろうとも最終処 分場は必要になる。南大隅町は狙われる。最後の ゴミ置き場だ。受け入れたくない」と。

大きな集会の壇上で現地住民が訴えたのは初め

てのことである。そして、鹿児島には原発再稼働と最終処分場建設の二つの大きな問題があることを県内外にアピールすることになった。

この日早朝は、川内原発ゲート前抗議行動に参加。 フリージャーナリスト志葉玲氏の取材に協力した。 氏は「川内原発が一番危ない」と世界へ訴えてい る。(Yahoo ニュース 2013.12.16 http://p.tl/vQXu)

■2013年7月20日、川内原発に原子力規制委員会が現地調査に入って以来(この日も我々は早朝に現地ゲートまえ抗議行動を展開した)、再稼働申請を提出している幾つかの原発の中で、一番早く再稼働する(審議がおわる)可能性があると言われている。2013年12月時点で、再稼働審議に必要な書類の提出率が70%以上で、他の原発より突出しているからだ。

そして、伊藤佑一郎鹿児島県知事は1月6日の年頭会見で、川内原発1、2号機の再稼働同意について、「相当長い間審査しており、3月ぐらいまでには審査を終了してほしい」と期待した上で、「6月県議会で判断したい」との考えを示した。それまでは県の方針を問われても「国の方針に従うだけ」と問題をそらしていたのだからたちが悪い。伊藤知事に県民の事を気にする様子は毛頭ない。福島で起こったことについては全く対岸の火事な

のだ。県民として猛烈に怒りが湧いている。知事 はこれまで、市民からの申入や抗議文に一切のコ メントをしていない。

■伊藤知事、県議会、県民、九州、全国、そして 全世界に再稼働阻止の厳然たる覚悟を示さなけれ ばならない。福島第一原発の事故究明は全くされ ず、放射能汚染水も放置され太平洋と大気中に更 に拡散している。安倍、政府、自民党、東電は責 任を負うどころか、福島の被曝した多くの子ども たちへの手当まで放棄している。日本中に避難し ている14万人の方々への責任も放棄している。こ の事は国家を挙げての犯罪である。また、この事 に対して声をあげることの出来ない日本の住民に も責任があるはずだ。まずは鹿児島で再稼働を くい止めなくて はいけない。子ど もたちの未来へ の責任があるの だ。

鹿児島に大結集 して声をあげる ことが今大変重 要になっている。



(※1 参考: 南大隅

町町長の委任状問題について HUNTER 2013年4月26日 http://p.tl/Lpei)

全国からの大結集を呼びかけます!「3.16さよなら原発!かごしまパレード」

日時 2014年3月16日(日)10:00~16:00 雨天決行 会場 テンパーク(鹿児島市中央公園)

主催 ストップ再稼働!3.11鹿児島集会実行委員会 問合せ TEL 099-248-5455 info@nanpou.com

詳細 http://www.goodbyenukes-kagoshima.jimdo.com/

§ 5. ◆原発現地から◆ 青森は正念場

◇大間原発(青森県)●中道雅史(大間原発反対現地集会実行委員会事務局長)

■昨年暮、株式会社金曜日から出版された黄色い リーフレット「原発再稼働絶対反対」。その「大 間原子力発電所」の項のタイトルは「核燃料サイ クルはいらない!」です。そう付けられたのは何 故か? 本文から少し引用してみます。

「(大間原発の)発電分は原子力発電所のない沖縄電力を除く日本国内の電力会社九社に売却する予定だが、この原発の狙いは発電そのものよりも、破綻した核燃料サイクルを維持するためプルトニウムを大量消費させることにある。」(P.107)

これが本質です。大間原発は「核燃サイクル」の 重要な一環なのです。(もちろん沖縄以外の全国 の電力会社が金を出すというのもポイントのひと つですが今回は詳述を控えます)

1月19日、首相安倍は、大間原発について「新増設のうちには入らない」と名指しで述べ、推進する考えを示しました。核燃料サイクルには必要不可欠。そして核燃料サイクルは自前の核武装、原発輸出(と他国の「ゴミ」の再処理)のためにはなくてはならないという考えも透けて見える気が

します。

■最近の大間原発をめぐる動きは、以下です。

電源開発(Jパワー)は、昨年7月の新審査基準をうけて本年3月に原子炉設置変更許可の申請時期を明らかにするとしていましたが、その後(2/17)、今春と予定されていた申請時期を「夏以降」に変更と説明、3月末までに詳細な申請時期を決めるといっています。

現在、大間原発訴訟(大間原発訴訟の会)が進行しており、さらに2月12日、函館市も大間原発差止め提訴を正式発表しました。電源開発の動きにかかわらず、2月末からの市議会を経て、4月2日ないし3日に東京地裁に提訴の予定。

■青森県のその他のおもな核施設について、その 動きと若干のコメントを書いてみます。

【六ヶ所】 1月7日、昨年12月の新審査基準(核 燃関連)をうけ、日本原燃は六ヶ所再処理工場な ど5施設の安全審査を原子力規制委員会に申請し ました。 再処理工場は今年10月の完工を目指すといいます。そして2014年度中に80トンの再処理を目論んでいます。そうなると来年には毎日大量の放射能が排出され(一日で原発一年分が排出されると言われてきましたが実はもっと多いという説もあり)、プルトニウムが本格生産されることになります(操業開始から3年で約8トン)。

【むつ中間貯蔵施設】 1月15日、事実上、東京電力の子会社「リサイクル燃料貯蔵(RFS)」は、むつ中間貯蔵施設の安全審査を申請。原子力規制委田中委員長は「審査は速やかに進むと思う」と発言。柏崎刈羽からの使用済み核燃料は年内とも考えられる使用前検査の前に搬入して、2015年3月操業開始をねらう模様。(「むつ」は核燃サイクルが前提の施設。しかし東電は柏崎刈羽の再稼働を進めるために強力に推進)

【東通原発】 東北電力1号機、再稼働をめぐり敷 地内断層の活動性が焦点、原子力規制委員会の結 論は今年に持ち越し、2015年7月の再稼働は不透明。

東京電力1号機は、3.11以後建設工事中断(進捗率は10%)。工事再開のめどはもちろん立っていません。しかし、1月30日、東電社長は「東通は重要」と村にきて説明し「断念してはいません」と発言。また、2月6日には茂木経産相が「新増設ではない」と建設続行を容認しました。

■私たちの反撃(春からこの秋に向けて)

今後青森方面では次のような取組みを予定しています。 3月9日「3.11青森集会」(2000人規模)、3月11日「大間風船計画」。4月には「六ヶ所現地行動」(6日)「4・9反核燃の日」(5日)関連行動など。そして、7月20日「第7回大間現地集会」、同19日~20日「大MAGROCK Vol.7」。今年こそ1000名を超える大間町内デモを実現しましょう!

秋までに大攻勢を!秋にもっと大きな行動を!青森は、いま、正念場。

(集会等の詳細は各ホームページを随時チェックしていただければ幸いです。)大間原発反対現地集会実行委員会 http://nonukesooma.wordpress.com/ 核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会 http://nonukesrokkasho.wordpress.com/ なくそう原発・核燃、あおもりネットワーク http://nakuso-gk.net/

§ 6. 現闘の地「伊方の家」から

◇八木健彦(経産省前テントひろば)

- ●「伊方の家」は伊方原発から10kmの地点、八幡 浜市の中心部に近いところにある。それは昨年11 月下旬に、原発反対八西地区連絡協議会、八幡浜・ 原発から子どもを守る女の会、南予住民交流会、 再稼働阻止全国ネットワークの協力をもって設立 された。それは伊方原発の地元、30km圏~50km圏 の運動を発展させるその交流拠点・活動基地として、また首都圏や全国の運動が、再稼働一番手と 目されてきた伊方原発再稼働阻止の闘いを自らの 現場としていくためのものとして設立された。「伊 方の家」と命名されたそれは当初から地元の人々 の暖かい援助によってスタートしたのであった。
- ●暮れも押し迫った12月23日の「伊方の家」での会合によって、「伊方原発50km圏内住民有志の会」が発足し、伊方町・佐多三崎半島地域と八幡浜市での戸別チラシ配布対話活動と2月15・16日南予地

域での前双葉町長井戸川克隆さん講演集会の開催を決定した。1月11日今年初の伊方原発ゲート前行動(30名参加)とその後20名での半島西端地域(旧三崎町地域)への戸別チラシ配布を皮切りに、1カ月有余にわたって徹底的に繰り広げられた(カラーチラシ9000枚有余、講演会案内チラシ8000枚)。

●この活動を通じてこの地の風土、歴史、集落の成り立ち、家々や人々の佇まい、等々を知り、何人もの人々との対話を通じて原発再稼働に対する不安と恐怖、事故が起きれば避難できず被曝の中に見捨てられるということへの怒りが、底流に渦巻いていることを肌に感じさせられた。四電への不信、原発反対の立候補者が無いままの町長選へのもどかしさも人々の口を突いて出た。もっとも中には、知り合いに原発で働く人や原発労働者のための民宿経営者が多くその人たちのことを考え

ると再稼働やむなしという声もあった。元区長という年配者の話では推進派は3割で他は反対、ということであった。八幡浜市内でも多くの人が不安を感じていることが伝わってきた。2·11には40名でのゲート前行動の後、八幡浜市内の"みなっと"でのシール投票も実施。

●こうした活動の合間をぬって、松山での「原発さよなら四国ネットワーク」の月1回の街宣・ミーティングに参加し、「伊方原発止める会」の会議に出席してアピールをさせていただいた。あるいは大洲市でのグリーンコンシューマ主催の増山麗奈さん講演会にも参加し、チラシを配布していただいた。愛媛の伊方原発に反対する団体と満遍なく連携・協力していけることを志向して。

また、有機農産生協の内子八幡浜地区の集いに参加し、首都圏をはじめとする都会から内子に移住・入植して有機農業をおこない、農的エコ的生活を志向している若い世代の女性達との交流や、宇和島でのみかん採りの手伝いや、西予市明浜の無茶々園との交流と壮大な段々畑の見学等、南予の美しい豊かな自然と積み重ねられてきた暮らしの一端にふれ、新たな息吹にふれながら、この地域での反原発・再稼働阻止の意味を深めようとしてきた。

●2月15日の宇和島での講演会は、首都圏の大雪のために井戸川さんは到着することができず、DVD

「原発の町を追われて」の上映と80名の参加者での討論会となった。「宇和島子どもと未来を考える会」の女性たちの頑張り、老人会の人たちの集団参加、そして真剣さあふれる討論が印象的であった。大変な苦労をもって夜遅く八幡浜に到着された井戸川さんを迎え、翌16日八幡浜での講演会は110名の参加となり、「再稼働前になすべきことで再稼働は政治で決められない、住民だけが決めることだ~」と題する講演を大きな感銘を持って聴き入った。それは愛媛新聞に大きく報道された。

この講演会はその後様々な波紋を呼び起こしている。自治体の中に「人々の命と安全、財産(ふるさと)を守る」ということの意味を問いかけ、再稼働に立ち向かう姿勢を問い質している。また当初確保しえたはずの伊方町内での講演会場を町が介入して拒否したことは、メディアも取り上げるところとなった。

今、闘いは確かな流動を生み出しながら、いよいよこれからが自治体をも巻き込んだ本格化への正念場を迎えていこうとしている。



「伊方の家」通信 特設ページ http://saikadososhinet.sakura.ne.jp/ii/index.html

◆1月の「全国相談会」(18 日-19 日) と規制庁交渉(20 日) の報告

◇小川正治(再稼働阻止全国ネットワーク 事務局)

2014年1月18日と19日、「原発再稼働阻止のための 全国相談会」を東京で開催し、原発現地や全国各 地から25名、首都圏から約75名、総勢100名ほどが 参加し、白熱した討議と交流を行った。

■原子力規制委員会の再稼働審査が山場をむかえるなか、これまでの活動の質、量そして強さを如何に全国的な行動に結びつけていくか、それが私たちの課題のひとつである。2012年11月の「再稼働阻止全国ネットワーク」結成から一年あまり、特に昨秋以降、福井・岩内(北海道)・博多・松山・敦賀・川内(鹿児島)などで全国相談会や交流会を積み重ねてきたが、今回の「全国相談会」

はその成果を更に深化・強化していく場として設定された。

■1日目は、まず柳田真さん(共同代表)が情勢報告と方針提起を行った。また「伊方の家」に続いて川内現地への専属者派遣や、3月16日の鹿児島1万人集会への全国結集など、さらなる全国結集を呼びかけた。広瀬隆さんからは、原発立地自治体議員による「住民連合」構想が提起された。

(この構想は、13道県70名ほどの地方議員の賛同を得て具体化されつつある。2月24日に議員会館で院内集会が予定されており、再稼働阻止全国ネットも協力していく)

- ■続いて原発立地各地(泊、大間、東海村、柏崎 刈羽、志賀、若狭、伊方、玄海、川内)や隣接地 域の富山、岐阜、関西(京都・大阪)、広島、宮 崎から、それぞれの活動や課題について簡潔で内 実のある報告が次々と行われた。また首都圏から も積極的な意見がだされ、まさに全国的な情報と 方針の共有化を図ることが出来た。これまで取り 組んできた全国相談会や各地集会を通じて、仲間 としての連帯感が一層深まりつある。忌憚ない 議論と行動は再稼働阻止ネット結成の主旨であり、 その成果を改めて確認することができた。
- ■1日目夜も報告・議論が続けられ、主として伊方と川内を焦点に話し合った。特に昨年11月、愛媛県八幡浜市に開設した「伊方の家」が、日常活動に大きな役割を果たしていることや、チラシの戸別配布などを通して人の輪が着実に広がってきていることが報告された。そして川内への長期派遣にむけて、川内現地と齟齬のない連携のなかで進めていくことが話し合われた。また一週間程度の各地からの短期派遣も考えようという提起もあった。
- ■2日目午前は「原子力規制委との闘い」をテーマに討議した。基調的な報告の後、再稼働審査における電力会社からの書類提出の遅れもあって審査が長引いている中、規制委への申し入れ行動にもっと注力することにした。また「原発推進機関」としての原子力規制委員会・規制庁にいささかの期待も幻想も持つことなく、厳しく追及していくまして翌20日(月)の規制庁との交渉に向けて質問内容を確認するとともに、防災計画・避難訓練のでたらめさを鋭く問いただしていくことにした。
- ■2日目の後半は2012年7月1日を頂点とする「大飯の闘い」について、現地行動のビデオ映像や記録資料によって学んだ。さらに、先日発刊の『原発再稼働絶対反対』(再稼働阻止全国ネットワーク編、「金曜日」発行)に報告されている各地の闘いを学び、今後の闘いに活用していくことにした。

■来る3月11日に「全国一斉風船飛ばし」を環境に優しい風船を使って行うことが提案され、泊での事例などが紹介された。現在、3・11ないしその前後に泊・大間・志賀・若狭・伊方で風船飛ばしが計画されている。東海村・柏崎刈羽などでも春に行う予定で、東京での実施も検討されている。その他、映画『シロウオ~原発立地を断念させた町』について監督から紹介をいただき、都内で4月13日(土)午後に上映会の企画が進められている。

「経産省前テントひろば」や「首都圏反原発連合(反原連)」からは、ウイングを広げた活動の展開や行動現場での約束事といった示唆に富む発言をいただいた。なお予定していた鎌田慧さん(共同代表)のお話しは、都知事選関連などの行事が重なり、残念ながら伺うことが出来なかった。

- ■今回の全国相談会の成果は、これまでの交流を通して築かれた人のつながりが一層強くなり、忌憚のない自由闊達な議論を通して今後の再稼働阻止の闘いの確かな展望を持てたこと、そして相互に知恵を出しあい相互に駆けつける連帯の絆を確信できたことにあると思う。重大局面での行動の具体的イメージを議論できたことは大きい。また規制委による審査判定の遅れが伝えられる中、規制委による審査判定の遅れが伝えられる中、党回議論された日常的な活動や政府・規制委・自治体・議会への抗議、申し入れなどに、更に力を尽くしていきたい。最後に次回「全国相談会」を4月26日~27日、京都で開催することを申し合わせた。
- ■3日目となる20日(月)の原子力規制庁との院内交渉には、原発各地を含む約40名が参加(福島みずほ議員同席)し、各地の訴えを熱く伝えた。規制庁は「審査に合格しても事故は起こりうる」ことを認める一方で、「審査と防災計画・避難計画は別物」などと回答した。このような「人の命より再稼働優先」という規制庁の発言に、参加者からは激しい抗議の声が巻き起こった。「地元理解の取得」「30キロ圏問題」など多くの追及がなされたが、紙幅の関係で割愛した。

(本紙 10 ページに 冊子『原発再稼働絶対反対』の紹介を掲載しました)

>>>>>>>>>

★原子力規制員会の動き

2月 21 日現在、第 85 回(2/25 予定)、第 86 回(2/26 予定)、第 87 回(2/27 予定)まで日程が発表されている。昨年 7 月以降適合性審査の申請がされた原発は、9/27 柏崎刈羽(6 号炉、7 号炉)、12/25 島根原発(2 号炉)、12/27 女川原発(2 号炉)、2/14 浜岡原発(4 号炉)である。1/20-21 に敦賀原発の現地調査、2/22-23 に志賀原発の現地調査がそれぞれ行われ、昨年 9 月から 3 回にわたって行われた東通原発破砕帯現地調査の評価会合は 2/24 に開催予定。また、1 月から核燃料施設の申請が相次いで提出された(5 事業者 8 施設)。

2月18日の規制庁定例会見で森本次長は、浜岡原発の申請を受けてBWRの専属チームを設置したと発表。 女川、島根、柏崎刈羽、浜岡4事業所の審査にあたる。PWRの審査と比べ「シビアアクシデント対策」に 大きな違いがあるという。また、ほとんど注目されていないが、先日、経産省エネ庁の主管で「確率論的 リスク評価日米ラウンドテーブル」が開催された(2月10日)。原発事故リスクを確率論で評価する手 法の日本への導入強化を図る狙いがある。確率論を駆使したところで原発事故が起きることは自明(規制 庁も認めている)であり、再稼働こそが事故リスクを高めるとさえ言える。福島事故は複数の原子炉が爆発 し現在も高濃度汚染水の問題や着手不可能なほど高線量の事故現場を抱え以前危険な状態にある。当然、 原因解明には至っていない。廃炉への足がかりを固めようとする欧州とは雲泥の差だ。

2月19日夕方HuffingtonPost 誌に「再稼働する原発第1号が決定へ 審査を優先する発電所を決める方針」という記事が載った。この日は午後から委員長定例会見があり、審査書案作成に入るということは審査合格か、という記者質問に対し委員長は「合格の見通しがないのに審査書は作らない」と発言。また、「(規制委は)再稼働の判断はやらない」「公聴会を開くとしても、それは地元の理解を求めるということではない。科学的、技術的にみてどうか、という意見なら聞く」などと発言した。 (事務局)

大飯原発3・4号炉 審査状況 http://www.nsr.go.jp/activity/regulation/tekigousei/shinsa/ooi34.html 伊方原発3号炉 審査状況 http://www.nsr.go.jp/activity/regulation/tekigousei/shinsa/ikata3.html 高浜発電所3・4号炉 審査状況 http://www.nsr.go.jp/activity/regulation/tekigousei/shinsa/takahama34.html 川内原発1・2号炉 審査状況 http://www.nsr.go.jp/activity/regulation/tekigousei/shinsa/sendai12.html 玄海原発3・4号炉 審査状況 http://www.nsr.go.jp/activity/regulation/tekigousei/shinsa/genkai34.html 泊原発3号炉 審査状況 http://www.nsr.go.jp/activity/regulation/tekigousei/shinsa/tomari3.html 泊原発1・2号炉 審査状況 http://www.nsr.go.jp/activity/regulation/tekigousei/shinsa/tomari12.html 柏崎刈羽原発6・7号炉審査状況 http://www.nsr.go.jp/activity/regulation/tekigousei/shinsa/kk67.html 島根原発2号炉 審査状況 http://www.nsr.go.jp/activity/regulation/tekigousei/shinsa/shimane2.html 女川原発2号炉 審査状況 http://www.nsr.go.jp/activity/regulation/tekigousei/shinsa/onagawa2.html 浜岡原発4号炉 審査状況 http://www.nsr.go.jp/activity/regulation/tekigousei/shinsa/hamaoka4.html 核燃料施設等の適合性審査(申請状況、配布資料)

http://www.nsr.go.jp/activity/regulation/tekigousei/nuclear_facilities.html

2月19日原子力規制委 定例会見 速記録 http://www.nsr.go.jp/kaiken/data/20140219sokkiroku.pdf 2月18日原子力規制庁次長 定例会見 速記録 http://www.nsr.go.jp/kaiken/data/20140218sokkiroku.pdf

★再稼働審査、原子力防災関連のニュース

2/14 BLOGOS「原発の再稼働と地域防災計画に関する質問主意書」http://blogos.com/article/80365/2/14 BLOGOS「主張/エネルギー政策/原発再稼働前提の計画やめよ」http://blogos.com/article/80359/2/15 毎日新聞 社説「浜岡原発審査 再稼働より廃炉検討を」

http://mainichi.jp/opinion/news/20140215k0000m070192000c.html

2/18 愛媛県、伊方原発事故時の広域避難計画を改訂

http://www.nikkei.com/article/DGXNZO66964980X10C14A2LA0000/

2/19 原子力規制委 委員長定例会見 速記録 http://www.nsr.go.jp/kaiken/data/20140219sokkiroku.pdf

- 2/19 HuffingtonPost 「再稼働する原発第1号が決定へ」 http://p.tl/SUf6
- 2/20 東京新聞「再稼働審査で公聴会 規制委方針 公平性に危うさも」 http://www.tokyo-np.co.jp/article/politics/news/CK2014022002000120.html
- 2/21 南日本新聞「[もんじゅ] 廃炉に向けた見直しを」http://p.tl/dln0
- 2/22 東京新聞「再稼働判断 自治体を軽視 防災計画、審査に「含まず」 http://www.tokyo-np.co.jp/article/politics/news/CK2014022202000135.html

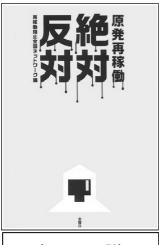
★今後の日程

(再稼働阻止ネットの行動にかかわりなく全国のイベント紹介)

	イベント名	内容
3月8日(土)	原発のない福島を!県民第集会 (郡山会場) ユラックス熱海 (いわき会場) いわき市文化センター (福島会場) 福島県教育会館	11 時~ アトラクション 13 時~ 県民大集会 15 時~ デモ行進 ※福島・いわき会場のみ 主催:原発のない福島を!県民大集会実行委員会
3月8日(土)	上関原発を建てさせない山口県民大集 会 会場:維新公園ちょるる広場	第一部 10:00~ 第二部 12:00~ 主催:上関原発を建てさせない山口県民大集会実行委員会
3月9日(日)	3・11 メモリアルアクション 原発のない新しい福井へ 会場:鯖江 市文化センター 問合せ 090-8263-6104(事務局:林)	12 時~文化行事 13 時~集会 福島からの呼びかけ ほか資料展示 集会後、市民行進(予定) 主催 3・1 1 さよなら原発福井県集会 in さばえ 2014 実行委員会
3月9日(日)	さようなら原発・核燃「3.11」青森集 会 会場:青森市文化会館	12 時半~講演、14 時半~デモ更新、県庁包囲行動 主催なくそう原発・核燃あおもりネットワーク
3月9日(日)	3.9 NO NUKES DAY 原発ゼロ☆大統一 行動 〜福島を忘れるな!再稼働を許 すな!〜	13 時〜日比谷野音で集会 14 時〜請願デモ、国会包囲 主催:首都圏反原発連合/さようなら原発1000 万人アクショ ン/原発をなくす全国連絡会
3月10日(月)	「いのち まつらむ」脱原発の夕べ 〜祈りと対話と、歌の集い〜 会場:郡山市「教組会館」(郡山市桑 野 2-33-9) 問合せ 070-5018-7478 黒田 080	18 時開会 〈第一部〉「祈りと対話の夕べ」 〈第二部〉「いのちの歌ライブ」 主催:「いのち まつらむ」の集い -5227-2110 関 080-6005-0734 大内
3月11日(火)	3. 11「第3回 原発いらない地球 (いのち)のつどい」 会場: A O Z[ア オウゼ] 問合せ 080-4518-7368	10 時半 集合 福島市内デモ行進&県への申し入れ 14 時~●スライドショー ●テーマ別の報告他 共催:「原発いらない福島の女たち」&「スリーノン(3NON)の女たち」
3月11日(火)	全国各地で風船プロジェクト (3月~4月ごろ)	
3月15日(土)	フクシマを忘れない!さようなら原発 3.15 脱原発集会	13 時~日比谷野音で集会 14 時半~デモ 主催: さようなら原発 1000 万人アクショ ン
3月16日(日)	「3.16 さよなら原発!かごしまパレード」 会場 テンパーク (鹿児島市中央公園) (雨天決行) 問合せ TEL 099-248-5455	10 時~太陽の広場(チャリティー) 13 時~さよなら原発集会 主催:ストップ再稼働! 3.11 鹿児島集会実行 委員会
3月24日(月)	院内集会と記者会見【原発立地自治体の現職議員による政府への公開質問状】 (衆議院議員会館 講堂にて 13 時から院内集会、その後記者会見(詳細後日)) 主催 原発立地自治体住民連合 (再稼働阻止ネット事務局もお手伝いします!)	
4月5日(土)	4・9 反核燃の日 全国集会	
4月6日(日)	4・6 六ヶ所現地行動	
4月26日~27日 再稼働阻止 全国相談会<京都開催> (主催 再稼働阻止全国ネットワーク)		

(これらの全国行動に参加するため「交通費基金」から交通費の一部補助を行う場合があります。詳しく は再稼働阻止ネット事務局へお問い合わせください。)

『原発再稼働 絶対反対』 - 再稼働阻止全国ネットワーク編 -



(800円+税) 出版:金曜日 福島原発事故は収束に向かうどころか、汚染水漏れ問題は深刻化し 避難住民の帰還にも目処が立っていない。ところが、安倍政権は原 発廃炉を求める市民の声を無視し、再稼働を推し進めようとしてい る。そんなことは絶対に認めないと、原発再稼働阻止闘争をしてい る全国の団体が手を携え、ネットワークをつくった。 怒りの声、さまざまな運動などを現地から伝える。

【もくじ】

●まえがき ●現地からの報告(16)泊、六ヶ所、東通、女川、福島、柏崎刈羽、東海第二、横須賀原子力空母、浜岡、志賀、敦賀〜大飯、伊方、玄海、川内、島根、大間 ●「再稼働して自殺しなさい」 広瀬隆 ●再稼働のための「原子力規制委員会」 天野恵一 ●日本の原子力発電所一覧 ●再稼働阻止全国ネットワーク連絡先お求めは info@saikadososhinet.sakura.ne.jp までご連絡下さい



福島原発事故後の避難の実態をふまえ、 交通工学的な観点から全原発を検証。その結果、 住民の被ばくを避ける現実的な時間内で 避難することは、全原発で不可能だとわかった!

^{環境経済研究所代表} 上岡直見【著】



(1800 円+税) 出版:合同出版

【もくじ】

◎はじめに ◎第一部 避難計画の検証 第一章 福島での避難実態 | 第二章 防災計画と避難の考え方 | 第三章 避難に関する問題点 | 第四章 交通工学から避難を考える | 第五章 これから始まる「最悪」シナリオ ◎第二部 各原発の避難の分析 柏/東通/女川/福島第一・第二/東海第二/柏崎刈羽/浜岡/志賀/敦賀・もんじゅ・美浜/大飯・高浜/島根/伊方/玄海/川内

◎チェックリスト あなたの町の避難チェック ◎あとがき

お求めは 合同出版株式会社まで 電話 03-3294-3507・FAX 03-3294-3509 全国書店または Web からも求めいただけます

http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product_id=415

全国の原発再稼働を阻止しよう!

―現地闘争に参加する、交通費基金カンパを―

私たちは、①福島から現地へ、②現地から他の現地へ、③そして東京など都市部から現地へかけつけ、 地元の闘いと一体となって再稼働を阻止する闘いをこれからも継続します。2013 年 9 月 15 日以降、再び 「原発稼働ゼロ」となりました。わたしたちは永遠の原発ゼロを求めて「再稼働の嵐」に抗する広く強い 行動を展開していくために基金 300 万円をめざし引き続きご協力をお願いいたします。

> 口座記号 00110-0-688699 加入者名 再稼働阻止全国ネットワーク 備考に「交通費基金カンパ」とご記入ください。

★★★再稼働阻止全国ネットワーク ホームページをお役立てください★★★

http://saikadososhinet.sakura.ne.jp/



原子力防災に関する記事(サイト内)

○02月21日開催・・・中国財職(2/20):朱年禄、島根県雲南市も安対協・身根2号費 ○02月04日開催・・・日径(2/4):新潟県原子力防災指針<案>、UP2週難人口約44万人

9.01月24日9月・・・「飲料化送飲総介】北海道原子中防災排除(2011年10月年後)の保護をについて

- ・再稼働阻止に参加する団体・グループのさまざまな活動について 紹介しています。
- ・再稼働問題をはじめ、核燃サイクル、処分場問題、原発輸出など に関する報道、ニュース記事を随 時紹介しています。

(あおぞら放送は しばらくお休みします)

デメリットだらけの優秀神だ」

■共同通信(2/6):東通原業の連接終行を容認

經產相、参院予算委で答并 中共同通信(2/6):中部電力、河岡4号機の審

◆サポーター募集中 個人年会費 3,000 円、団体年会費 5,000 円

口座記号 00110-0-688699 加入者名 再稼働阻止全国ネットワーク 通信欄に、個人サポーター/団体サポーター/カンパ のいずれかと、お名前・連絡先(住所、電話またはメールアドレス)を添えてお申し込み下さい。

- ◆問合せ:〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-6-2 ダイナミックビル 5F たんぽぽ舎気付 再稼働阻止 全国ネット事務局 TEL 070-6650-5549 FAX 03-3238-0797 (再稼働阻止全国ネットワーク宛と明記) メール info@saikadososhinet.sakura.ne.jp、 HP http://saikadososhinet.sakura.ne.jp/
- ◆再稼働阻止全国ネットワーク NEWS 編集担当:寺田道男(京都) 海棠ひろ 千葉澄子 天野恵一
- ※原発再稼働問題にとりくむ全国各地の情報(市民団体の活動レポートや新聞記事、自治体の動きなど)をお寄せ下さい。メール送付先 report@saikadososhinet.sakura.ne.jp